

2015 年度夏の三者総会 議事録

2015 年度三者事務局校・神戸大学

平成 27 年 8 月 18 日

於・ホテルたつき

目次

1	活動報告	1
1.1	交通費補助・宿泊費補助について	1
1.1.1	概要	1
2	2015 年度三者若手夏の学校修正予算案	1
2.1	概要	1
3	三者役職校選定	1
3.1	概要	1
4	高エネルギーパートの将来について	1
4.1	概要	1
4.2	質疑応答	1
5	YONUPA 運営の監督責任者の明確化	2
5.1	概要	2
5.2	質疑応答	2
6	ローテーション校の新しい選定方法	2
6.1	概要	2
7	web ページの設立	2
7.1	概要	2
8	夏の学校に関するアンケート実施について	3
8.1	概要	3
8.2	質疑応答	3

1 活動報告

1.1 交通費補助・宿泊費補助について

1.1.1 概要

2015年度原子核三者若手夏の学校における、講師・発表者及び一般参加者への交通費・宿泊費の補助が承認された。

2 2015年度三者若手夏の学校修正予算案

2.1 概要

三者センター校（北海道大学）と三者準備校（東北大学）によって提出された両修正予算案と、レンタカーの運用が承認された。

3 三者役職校選定

3.1 概要

2017年度三者準備校として東京大学（駒場）・東京工業大学、三者センター校として名古屋大学が選定されたことが承認された。引き継ぎ、2018年度三者センター校・三者準備校と2017年度三者事務局校・名簿校の選定（2015年度三者事務局校：神戸大学が担当）を行い、YONUPA-ML上で承認を求める。

4 高エネルギーパートの将来について

4.1 概要

2016年度以降の高エネルギーパートの夏の学校が、休止されることが採決された。（休止希望：63名、継続希望：45名）

4.2 質疑応答

- Q. 来年も継続した場合、次期役職校を選定する目処はたつのか。
- A. 時間はかかるかもしれないが、他パートの協力を要請した上で解決する。人数調査を行う。
- Q. もし休止にするならば、休止期間中に問題を解決することができるのか。
- A. 学生だけでなく、教員を通して解決策を考案する。再開する声があがるまで再開することはできない。もし休止が長引き意志があるならば、学生から再開したいと声をあげてもらえるとよい。
- Q. 高エネルギーパートで行われている春の学校とはどう差別化していくのか。
- A. 春の学校については学生の自主的な開催ではないため、教員との相談が必要である。もし来年度以降も高エネルギーパートの夏の学校を開催するならば、すみ分けの工夫や日程調整を行う。
- Q. 原子核三者若手夏の学校は元々、異なる分野の交流を目的としている。この問題については高エネルギーパートだけでなく、三者全体で解決に取り組む必要があるのではないか。
- A. 三者それぞれのパートが関わり、高エネルギーパートの問題解決にあたる。

5 YONUPA 運営の監督責任者の明確化

5.1 概要

世話人代表と各パート責任者を設置することが承認された。詳細については秋の学会までに考案する（201？年度三者？校：？大学が担当）。

5.2 質疑応答

- Q. 世話人代表を一人で担うのは負担が大きいのではないか。
- A. 複数人で担うと、他の人の役割が不明瞭になり現状と変わらない。
- Q. 最低 2 人は必要ではないか。副代表も設置してはどうか。
- A. 良い提案だと思われる。検討の余地有り。
- Q. 世話人代表と研究会企画監督は分けた方がよいのではないか。
- A. 人員が確保できれば分ける。可能であれば研究会企画監督を設置したい。
- Q. 同年度の役職校からその役職校代表と世話人代表を兼任する可能性があるが、負担が大きいと思われる。昨年度の学校長や代表校の経験者が世話人代表に適任ではないか。
- A. 2 年役職にあたるのは大きな負担であるが、良い案だと思われる。
- Q. 選出方法はどのようなのか。
- A. 昨年度の役職校から選定する。それが困難である場合、必ずしも昨年度の役職校から選定する必要はない。
- Q. 世話人代表は各役職校から 1 人ずつ出すのか。
- A. 役職校（夏の学校の仕事を分担している学校）の中から 1 人のみ選出し、各役職校の代表と連絡をとる。

6 ローテーション校の新しい選定方法

6.1 概要

2016 年度以降の三者事務局校が行う各役職校の選定において、新しい選定方法を適用することが承認された。今後具体的なグループ分けを行う（2015 年度三者事務局校：神戸大学が担当）。

7 web ページの設立

7.1 概要

原子核三者若手夏の学校を対外に周知するためのページを、YONUPA-HP 上に追加することを報告した。

8 夏の学校に関するアンケート実施について

8.1 概要

アンケートの実施方法として、郵送するという案が否決された。今年度のアンケートは web 上で行う（201?年度三者?校：??大学が担当）。

8.2 質疑応答

Q. 財源はどこか。

A. 参加者の参加費から調達する。

Q. どの年度の予算から出すのか。

A. 2016 年度の役職校が行うならば、その役職校が申請する予算から出す。今年度役職校が行うにしても、予算として申請するのは来年度分になる。

Q. 経費の申請はいつ行うのか。

A. 秋の学会で予算申請を行う。必要であれば、春の総会で修正予算案として提出する。

Q. アンケートを web 上で行えば、費用はかからないのではないか。

A. 夏の学校に来ていない人にもアンケートに回答してもらいたいため、郵送で行う。web 上で行うと、そもそもアクセスしてもらえない可能性がある。

Q. 今年度は web 上で試してみてもどうか。

A. 議決を行い可決されれば郵送で行う、否決されれば web 上で行う。

Q. 郵送をするのはよいが、回答者が知らない研究会についてアンケートを行って、意味があるのか。夏の学校に参加しない人に参加費を使うのは感心しない。

A. アンケートの実施に使える主な財源は参加費であるので、参加費を使わせてもらう。

Q. 過去にも web 上でアンケートを実施したようだが、今年はどう違うのか。

A. 過去は夏の学校に参加した人を対象に行った。今年は参加していない人にもアンケートに回答してもらえるよう、各大学のスタッフに連絡をとる。

Q. 夏の学校参加登録時に、参加しない人に対してその理由をアンケートで聞けばよいのではないか。

A. 良い案だと思われる。まだアンケートの項目は具体的には決定していない。